



発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町3-6
☎ 0959(72)3957
●ホームページ●
<http://www15.ocn.ne.jp/~mikokoro/>

みことばで信仰年を豊かに生きよう

主任司祭 下口 勲

新年おめでとうございます。この二〇一三年が愛と喜びに満ちた年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。新年は仕事中毒にならないようにギアをトップからセカンドに切り替え、信徒と一緒に魚釣り、散歩、ウェブ・サイト、福江教会の牧者たちの更新作業を楽しみ、ゆとりのある生活をしたい、信徒ともつと交わりを深める年にしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

●信徒会館落成、教会献堂五〇周年

旧年は教区再編成に伴い、どっしりと落ち着いた野濱達也師と円熟した葛島輝義神父師をいただき、司祭

館は以前にまして賑やかになりました。また四月二五日には高見三明大司教を迎えて、信徒会館の落成に合わせて、教会献堂五〇周年を祝うことができました。さらに、編集委員の協力により、小冊子「福江教会の歩み」を発行できたことは何よりも喜ばしいことでした。

●司祭館建設工事着工、「島の信仰の輝き」発刊

来年(二〇一四年)四月、わたしたちは福江小教区創設一〇〇周年を迎えます。その記念事業として司祭館を遅くとも今年九月までには着工しなければなりません。工事が始まりますと、みなさんにご不自由をか

けることとなりますが、可能な限り迷惑がかからないように配慮しますので、その節はよろしくお願いいたします。

今年聞き取りに協力してくれました信徒とその編集に献身的に協力してくれた有志信徒の助けを受けて「島の信仰の輝き」と「浜脇教会の牧者たち」の発刊を目指しています。前者は福江教会献堂五〇周年を記念して、福江教会を建設した松下佐吉神父以降、歴代主任司祭を支えた三〇人の信徒に思い出を聞き取りしたものです。後者は浜脇小教区創設一三二年を記念して、久賀島の歴代主任司祭と出身司祭の司牧と活動を紹介したものです。

●みことばを学び、生き、伝える

第二バチカン公会議五〇周年を記念して開始された信仰年は、イエスキリストを通して示された神の愛を信じ、証するようにならなければなりません。一人ひとりに呼びかけています。信徒のみなさんには長崎教区と下五島地区評議会が準備する行事に参加することで、信仰年をふさわしく過ごすことが出来るようにしていただきたいと思います。福江小教区としては、教会創設一〇〇周年行事の準備をしなければなりません。

で、特別な行事は企画しません。個人としては毎日、捧げているミサ典礼に合わせて、当日のみことばを読み、黙想することから恵みと力を得て、教区・地区・小教区の福音宣教に貢献したいと願っています。

みことばは闇を照らす光です。わたしたちは、みことばでイエスキリストに出会うことができます。教会の教えも、信仰そのものも、みことばによって養われます。それだけではありません。いのちのことはであるみことばで神の望みは何であるかを知り、それを生きる力をいただきます。信仰年の教皇の呼びかけに応え、神の愛を証ができるように日頃からみことばに親しむようにしたいものです。

*** **

二〇一三・劈頭の想念

協働司祭 葛島輝義

東方に、青、紫、赤、橙が滲んだような時空。それは瞬きする間に、福江の空・山・海を映し出す。一瞬のうちに表情を変える大自然の芸術。そこに天と地の笑顔が見える。闇から光へ、二〇一三年の誕生。新しい夜明け、道を照らす光である。そして宇宙の時計が歴史を刻んで行

く。
一九年ぶりに福江で迎える初日。合わせる手にふと腕時計が目に残まる。よく見てみると、あちこちに傷が入っていることに気づく。

岐宿中学校で教師を辞めた日、福江空港から福岡の大神学校へ出発した日、浦上教会で叙階された日、そして司祭としてこの福江に帰って来た日：多くの別れや出会い、喜怒哀楽のかけがえのない日々を共に営んで来た舎弟のような時計。がさつな男の腕の温もりを感じながら、移りゆく時の積み重なりを垣間見たであろう腕時計の囁きが、宝石を摩り潰したように心に入ってきて来る――。
薄暗がりの中を手探りで進む、馴染みのない道を好んだのではなく、光が完全に射して道のかなり先まで見えるようになるのを嫌ったのではない。ただ、厳然として主の道があったということ……。

今や人間も惑星地球も荒天的状況、それでも、それを生きる証や生きる幸せに変える力が信仰にはある。黙っていても心は脈を打つ、その脈にこそ意味がある……。
何かそんな無言の音が――。
体力を過信し、生命の遣り取りをしながらも、未だ男は生き延びている。そこ、ここで小教区の方々の祈り・信仰によって繋がり、同じ時を

刻んでいることに癒されているからであろう。

聖書は伝える。「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた」(マルコ一・三五)。「人里離れた所」はまさに祈りの場「ここ」である。キリストもこんな所で祈られたのだろうか。見知らぬ年と出会いながら、広がる時空へと祈りが湧く。

時計の針と共に心の針も動いて行く新年。小教区の皆様には二〇一三年を刻む宇宙の時計が、愛と幸福を告げる希望の針となるよう――ここにささやかな祈りをささげる者である。

* * * * *

「信仰年」の中で

助任司祭 野濱達也

二〇一二年、この年は個人的に大きな変化の年でありました。初めて貰う異動辞令、初めての教会司牧、まだ若輩のこの司祭にとっては体験するすべてのことが新鮮でした。新しい出会いがあり、新しい学びがあり、恵みの年であったと思います。ただ、今までと全く違う生活環境の変化は慣れるのにも時間がかかり、

福江教会にとっても初めての三人体制での司牧は上手くいかないこともあり、皆様にもご迷惑をおかけしたのではないかと思います。私自身福江教会の助任でありながら、週末は不在のことが多く、信徒の皆様との交流の場も限られ、皆様には多くの戸惑いを与えてしまったかもしれませぬ。我々司祭も、より最善の方法をこれからも模索していく必要があるでしょう。

さて、昨年印象深かった出来事の一つを紹介いたします。それは十月に行われた、牢屋の窄殉教祭です。この日、長崎から両親も出て来て参加していました。ミサの前に父と何気なく記念碑を眺めていると、そこに刻まれた名前を見て父が語りました。「この人がお前の爺さんの爺さんになる人だ。」直系の親族が牢屋の中に入っていた事実を初めて聞かされた私は、今まで何も知らなかった自分を恥ずべきとともに、苦しみながら信仰を守り抜いてきた先祖たちの姿に感慨深いものを感じました。今の自分の信仰生活にあらためて感謝する出来事でありました。

昨年十月から今年の十一月までを、教皇様は「信仰年」と定め、信仰のお恵みをみつめ直すよう呼びかけられました。この「信仰年」という枠組みの中で、自分たちが伝えら

れてきたもの、与えられたものをどのように伝えていくか、あらためて自分の信仰と向きあつていく、そんな一年にしたいと思えます。

現代の教会は多くの問題を抱えています。信徒の教会離れ、また少子高齢化の波は教会にも押し寄せ、自分たちの教会をどう維持存続していくか、多くの教会が頭を抱えています。一方で、熱心に祈り、信仰生活を大切にし、教会を守るために努力する多くの信徒の皆様も見受けられます。教会学校に、ごミサにと元氣よくやって来る子供たちの姿もあります。そんな皆様の信仰生活を支えていく存在であるように、この一年も頑張つてまいりたいと思えます。

今後いろいろな形で皆様にはお世話になります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

* * * * *

新年を迎えー喜び・お礼ー

議長 宮崎 猛

新しい年を迎え皆様お慶びのことと思います。

私も早いもので役員になって六年になりました。

規約でするので、今年の三月で退き

なにもわからない私の拙い舵取りに、ついて来てくださいました皆様、心からお礼を申し上げます。

司祭館の建設につきましても、これから四人の神父様が住めるように大きくすることでしたが、大司教様との話し合いで、信徒の皆様への負担金はそのままということになりました。

まだ詳しくはいえませんが、今年の夏ごろには建設に取り掛かれると思います。

来年の小教区設立百周年記念に間に合うように、三月末には竣工予定です。

私のようなものが福江小教区百周年の記念に関わりをもてましたことは本当にありがたいことです。あまり役にはたたなかったように思いますが。

皆様のお恵みとおん摂理によって、また信徒の皆様のご協力とによって、この記念事業をなんとか完遂できるようです。

今年も様々な行事があるかと思いますが、信徒の皆様のご参加とご協力をよろしく願います。

最後になりますが、信徒の皆様お一人おひとりが幸せな一年でありますようにここからお祈りいたします。

下五島地区 合同堅信式



一月二十日(日)十一時より穏やかな日の中、下五島合同堅信式が福江教会にて高見大司教様の司式で行われた。今回は合わせて二十七名の受堅者で、福江教会からは八名(内大人一名)が堅信の恵みを授かった。

大司教様は式の中で「信仰年でもあり、神様の恵みに改めて感謝をして信仰の恵みと神様を信じて信仰を守って行けば、神様は間違いなくいます。」と話された。

堅信式の後、感謝式が行われ大司教様へのお礼の言葉が水ノ浦小教区の中学生からあり、「堅信は大人の



信者となったことを自覚する時です、これから大人の信者として生きていく私たちが、言葉と行いを自身の姿とおして、イエズスキリストを信じて生きていく証ししたい。」と力強い言葉を聞くことが出来た。また、福江教会の保護者から、「今日の大きな恵みを胸に無償の愛をそそがれるイエス様の教えを伝え、沢山の恵みを願いながら子供達をこれから見守りたい。」と感謝の言葉がありました。

青年会の紹介

昨年より活動を再開した、下五島教区の青年会のみなさんにお話を聞くことができました。

昨年八月の聖母祭に屋台を出店するなど活動を行っている青年会ですが、毎月第一金曜日の夜に会合を行っているそうです。現在のメンバーは、だいたい五人くらいで、この日に参加していたのは、左から川上さん、赤窄さん、濱邊さんの三名の方でした。毎月の会合で、今後どんなことを行っていくか意見を出し合っているようですが、メンバーがまだまだ少ないのが悩みのタネとの事。

急な取材だったため、三人は少々面食らった様子でしたが、お話を聞いて「何かやっていきたい」という



意欲を感じ取ることが出来ました。

下五島教区の青年会では、新メンバーを募集しています！食事に、奉仕活動、巡礼などいろいろな活動を予定しています。ぜひ第一金曜日の夜七時半に福江教会の信徒会館に来てみませんか？青年の男女を持つ親御さん、息子さん娘さんにぜひ「行ってみらんね！」と一声かけて下さい。良縁に恵まれるかも…

広報委員会は青年会の活動を応援します。



左から川上さん、赤窄さん、濱邊さん

クリスマス イルミネーション点灯式

十二月九日(日)夕方六時、クリスマスイルミネーション点灯式が行われた。

その日、十二時から、教会の中の馬小屋飾り付けと教会の外の木々のイルミネーションの準備が整った教会前広場で、聖歌の流れる中、野濱神父様の司式が始まり、まず小学生によるルカ福音書の朗読が行われた。

ツリーの祝別の後、聖歌が歌われる中、ツリーと聖堂上の丸い大きなイルミネーションが一齐に点灯し、子供達と参加した信徒から歓声と拍手が起った。

このイルミネーションは来月初旬まで毎晩灯されることになっている。



クリスマスを待ち、迎える喜びを伝える「光」。この光が道行く人々の心にも灯されると良いですね。



クリスマスミサ・募金



クリスマスミサ

《香典返し》御礼

- | | | |
|-----|-----|---------|
| 24年 | 8月 | 宮川 トミ子様 |
| | | 中島 久様 |
| | 9月 | 水谷 貴美子様 |
| | | 小島 満様 |
| | 10月 | 川中 昭子様 |
| | | 鍋内 フイ子様 |
| | | 浦 富蔵様 |
| | 12月 | 竹口 友幸様 |
| | | 濱崎 愛子様 |
- ありがとうございました。



クリスマス募金



ぜんざいサービス

お知らせ

◆2013年

福江小教区 年の黙想会

指導司祭 神言会 浜口末明神父

日時：3月25日(月)、26日(火)、

27日(水)

【午前の部】

9時～12時20分

【午後の部】

19時～21時20分

黙想会期間中の通常ミサはお休みとします。

赦しの秘蹟は出来るだけ最終日にしましょう。

編集後記

新しい年を迎えて、気持ちも引き締まっているこの月に、堅信式が行われました。

これは堅信を受ける子供たちはもとより、見守る私達にとっても大きなお恵みです。

この大きな喜びで明けたこの年が、皆様にとって良い年でありますように。

今年もよろしくお願いたします。(K)